

## 共生ビジョン懇談会における意見と回答

※「ご意見に対する考え方」欄は沼田市の対応状況が中心となっている項目がありますが、ご了承ください。

No.	分類	事業名	意見の内容	ご意見に対する考え方
1	2 - (3) - ④	スポーツ施設の相互利用事業	スポーツ施設の相互利用事業に関して、調査票 10 の R3 年度施設利用者数に疑問点があります。「川場村サッカー場」や「川場村テニスコート」の利用者が 0 人となっていますが、もっと利用されていると思います。	サッカー場及びテニスコートについては、指定管理となっており、広域連携には該当していないので、0 人となっています。 現在、連携がないため、共生ビジョン別表第 4 表の施設一覧からの削除を検討いたします。
2	2 - (3) - ④	スポーツ施設の相互利用事業	テニスコートの利用者数を増やすために利根沼田地区での大会などを実施するのはいかがでしょうか。	現在、連携では利用がありませんが、地元の児童・生徒がスポーツ少年団等で主に利用しております。
3	3 - (1) - ①	地域公共交通対策事業	「利用促進」に関する取組を指標に設定する必要があるのではないかと。	沼田市では、バス利用促進につながるように、夏休み期間に合わせて高校生のデマンドバス運賃半額キャンペーンなどの取組を行いましたので、今後、そうした取組の実施回数などが指標として設定できるか検討いたします。 また、圏域内での利用促進につながる取組の実施についても検討してまいります。
4	3 - (2) - ①	移住・定住促進事業	定住・移住の促進に関しては、体験移住などが出来る施設を広域で用意して、ニーズの発掘をはかりたい。	移住や 2 地域居住を検討する上で、体験住宅はとても重要な施設です。沼田市の体験住宅は無料で 4泊 5 日まで体験できます。また、この住宅を活用して、みなかみや片品に移住を決めたというお話も聞いています。利根沼田地域は、都市的機能がある地域や山間部など幅広い地域となっています。それら地域を体験するには一つの施設では不可能であることから、各市町村にこの体験施設を設置するなど、利根沼田地域に移住を検討する方がどこでも利用できるよう市町村が一体となった運用が必要と考えます。また、沼田市には移住の支援を行う移住コンシェルジュがいます。沼田市への移住を検討している方に沼田市を中心とした利根沼田地域を案内していることから、他市町村の移住支援者との交流により、相互に連携できる体系造りも必要であると考えます。
5	3 - (2) - ①	移住・定住促進事業	利根沼田地域の地域農業の現状は、農業者の高齢化や担い手不足が徐々に進行し、農業生産基盤は縮小傾向にあり、耕作放棄地が増加し周辺環境や景観に悪影響を及ぼすなど、農業・農村は危機的な状況といっても過言ではない。 農業は人間が生きていくうえで欠かせない食料を供給し、農村は地域固有の美しい景観や緑と潤いに満ちたやすらぎを提供している。 地域定住自立圏共生ビジョンの交流移住部門において、利根沼田地域の農業や農村景観等の魅力を P R し、移住・定住が図られるように願う所である。	農業者の高齢化や担い手不足は従来からの課題です。地域によっては大規模経営による安定収入により、後継者が途絶えない地域もあります。利根沼田地域には若い人もいますが、なぜその方たちが就農しないのか？後継者がなぜ跡を継がず出て行ってしまうのか？その大変な部分を外部の人に頼ってばかりで良いのか？地域内での取組を見直す必要もあると思います。外部から来る人たちは、自然の癒しと、人とのふれあい、収穫による収入を夢見て来る人が多く見受けられ、現実の厳しい部分を知らない人が多く、数年で挫折し耕作放棄されることが懸念されます。農業における沼田市の移住対策の基本は、まず他農家への就業により経験を積み、その中で信頼を受けて後継者・経営者となることを薦めています。これまでも昭和村の農家で研修しながら市内に移住される方もおり、昨年度からは、市内のりんご農家の団体が後継者の育成を目的として移住者の受け入れを行っています。耕作しづらい棚田においては、オーナー制度を導入して、労働力の確保に努めています。今後も受け入れをし、支援してくれる組織を増やしていくことが必要と考えます。
6	—	—	今回は特に意見ありませんが、懇談会の中で、皆さんと意見交換をしながら、人口減少や管内の住民の暮らしが少しでも良くなるように協議をしていきたいと考えます。	今回の共生ビジョン懇談会は書面開催とさせていただきますが、来年度以降は新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、対面での会議を開催してまいります。